

予報期間 11月8日から11月14日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第26号については最新の台風予報を参照。
- 10日は、低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、高気圧が黄海付近へ移動して、北日本中心に西高東低の気圧配置となる。
- 11日は、高気圧が日本海へ移動する。
- 12日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が沿海州付近へ進む。
- 13日から14日は、低気圧がオホーツク海へ進み、大陸の高気圧が日本海へ張り出す。また、低気圧が日本の南から日本の東へ進む。

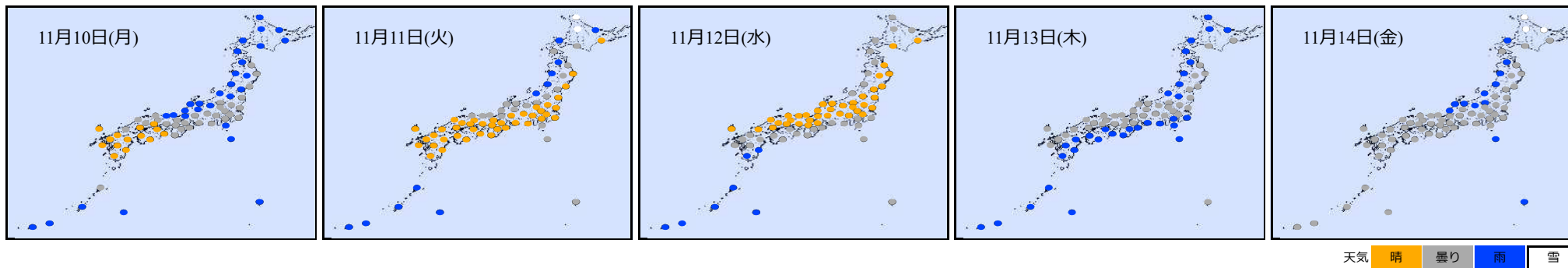
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日頃は、低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、北日本と東日本日本海側では荒れた天気となるおそれがある。
- 10日から12日頃は、台風第26号の進路等によっては、沖縄・奄美では大しけや警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

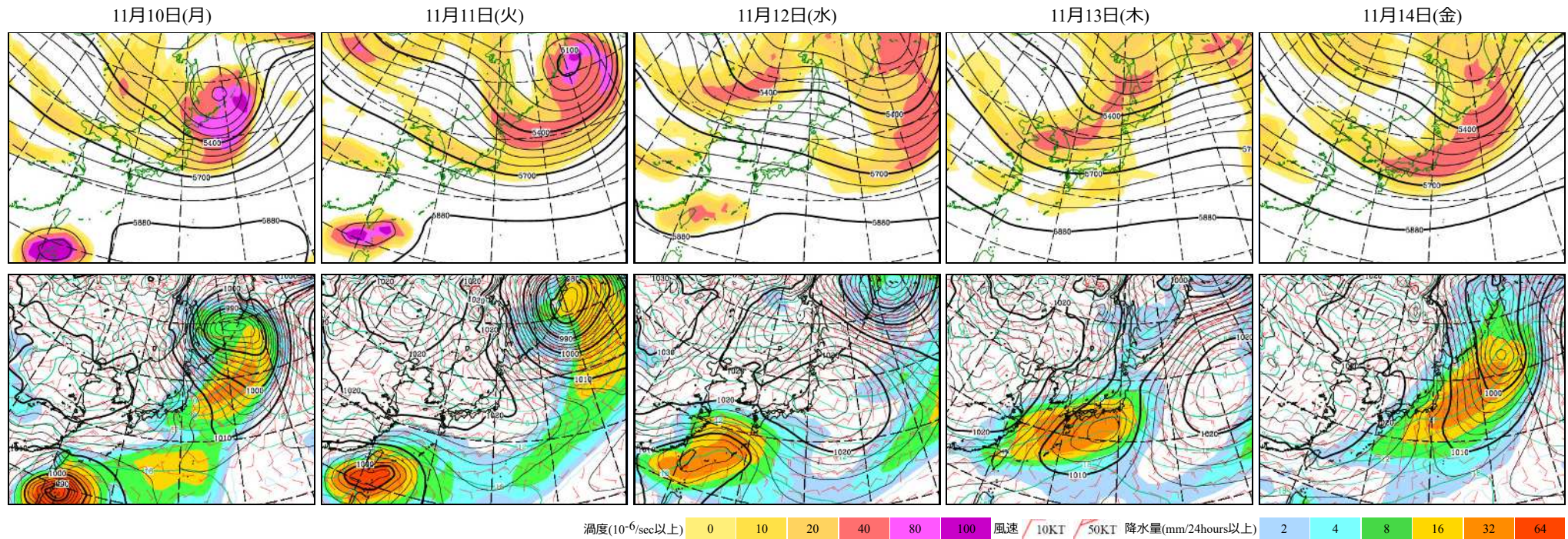
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

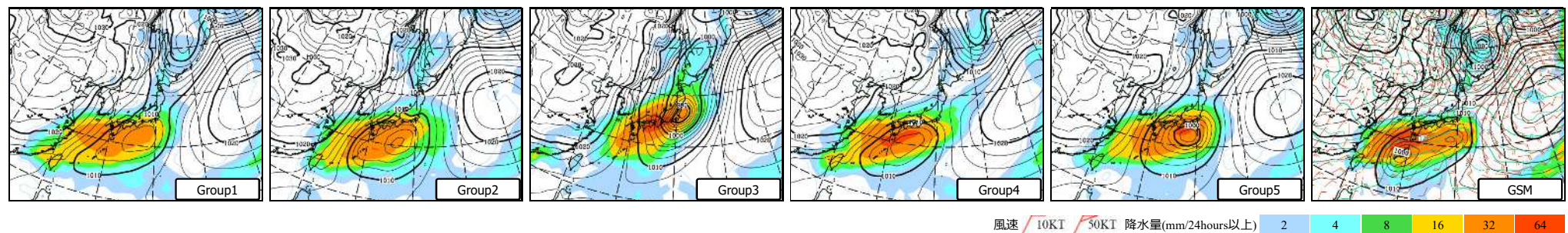


- 北日本から東日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 北日本から東日本にかけての太平洋側と西日本は、曇りや晴れの日が多いが、10日と13日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月13日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、12日は日本付近のリッジが強まり、日本の東へ移動する高気圧が明瞭となった。13日は、日本の南へ進む熱帯じょう乱が明瞭となり、東・西日本は降水域が広くかかる予想となり、降水確率が大きくなった。
- 期間の終わりの熱帯じょう乱については、東シナ海から日本の南へ進む予想をしているモデルが多い。また、降水域の北への広がり、GSMとENSは東・西日本に広く予想しているのに対して、海外モデルは太平洋側沿岸部に限られる予想。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは5400mの特定高度線にばらつきがみられる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、13日の東・西日本付近の降水予想は、海外モデルを参考に北への広がりを割り引いて考える。